

高温期に安定生産が可能な 根深ネギ新品種「夏もえか」

日本の野菜の生産額ランキングにおいて、ネギは第3位を誇る重要野菜です。近年の外食・中食産業の増加による業務加工用野菜の需要増によって、ネギにおいても生産全体における業務加工用の割合はおよそ6割に達しています。業務加工用には周年的に安定した供給が重要ですが、ネギの端境期である夏季は高温による収量や品質の低下が問題となっています。そこで農研機構は、夏季においても安定した生産が可能な新品種「夏もえか」を育成しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「夏もえか」は夏どり従来品種と比べて、草姿はやや開張性、葉色はやや淡い、葉折れ程度はやや多い、収穫物の揃いにやや優れるといった特性があります。
2. 「夏もえか」は夏どり従来品種と比べて、葉鞘（白色の部分）の長さはやや短いですが同等以上に太く、調製収量は同等以上で収量性が高いです。
3. 「夏もえか」は抽苔（ネギ坊主ができること）や分けつの発生は、ほぼみられません。



夏扇3号
(従来品種)

TA-6
(夏もえかの花粉親)

夏扇4号
(従来品種)

TA-6
(夏もえかの花粉親)

MSN-TAM-1
(夏もえかの種子親)

夏もえか

☆ 活用面での留意点

1. 葉鞘の肥大が旺盛なため、収穫が遅れると葉身（緑色の部分）や葉鞘・葉身間の襟部が裂けることがあります。
2. ご不明な点がございましたら、農研機構のお問い合わせフォームをご利用ください。

<https://prd.form.naro.go.jp/form/pub/naro01/research>